

みんなインソール® 開発の原点

～“芯”がつくる、転ばない世界へ～

開発の原点：震災の経験から生まれた構造思想

1995年1月17日、阪神淡路大震災。

当時、建築関係の仕事に携わっていたみんなインソール®の開発者は、現場で数々の被害と向き合う中で、ある先輩から語られた話に深く心を打たれました。

それは、ある木造住宅の耐震補強金物の誕生ストーリー。

建物を“固定する”のではなく、“揺れをしなやかに受け流す”ことで全体のバランスを保つという発想—。

この新しい構造思想は、のちに開発者が手がける「みんなインソール®」の原点となりました。

構造思想の応用：芯材設計によるバランス保持

みんなインソール®には、ある建材メーカー（以下、K社）が開発した木造住宅用耐震補強金物に通じる思想が込められています。

K社の補強金物が、建物の柱・土台を三次元的に支え、ねじれや引き抜きに柔軟に対応するように、

みんなインソール®も、足の骨格—特に7つの足根骨（距骨・踵骨・舟状骨・立方骨・3つの楔状骨）を立体的に支持する芯材構造を採用。

足元のふらつきや重心移動の不安定性をやさしく整えることが可能です。

まとめ：家と身体に通じる“芯”の思想

足の“芯”は、家の“基礎”と同じくらい大切です。

構造を“固定”するのではなく、力を受け流し、分散しながら支える—それが、みんなインソール®に込められた開発思想です。